

「新入社員の意識」調査

調査結果のポイント

- 会社選びは「仕事の内容」が第一。
- 会社とは「社会貢献の場」が3割超。「収入を得る場」を上回る。
- 職場生活における不安、「仕事面」が6割超。
- 社内で目指す地位、4割以上が「地位にはこだわらない」。
- 一つの企業で長く勤めたいと考える新入社員は約7割。
- 考えていた職場と違った際の対応で最も多かったのは「3年は働く」。
- 理想の上司は「気配り型」>「リーダーシップ型」。
- 結婚希望年齢は26～30歳が5割以上、希望する子供数の平均は1.83人。
- 子どもを持つ不安、女性の「仕事を続けにくくなる」は男性の4倍超。

調査要領

1. 調査目的 2020年度新入社員の意識動向の把握
2. 調査対象 岐阜・愛知両県内企業の新入社員
3. 調査時期 2020年3月～4月
4. 調査方法 無記名式アンケート
5. 有効回答者数 148名（内訳は下表のとおり）

※ 例年は「じゅうろく新入社員セミナー」に参加の約700名を対象とするが、今年度はオンラインセミナー切り替えのため、回答者数が大きく異なる

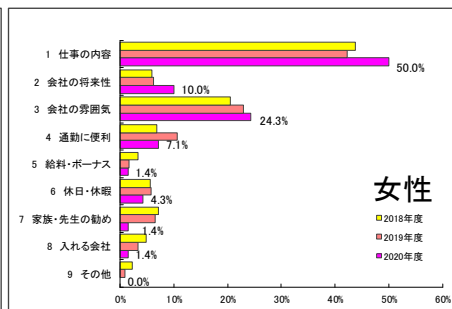
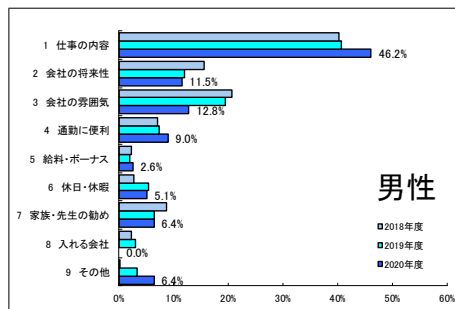
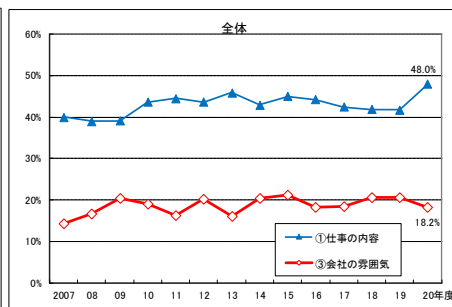
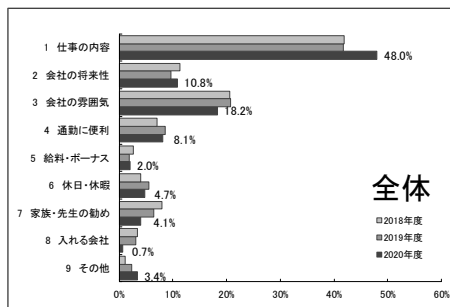
| 最終学歴 | 男 性 | | 女 性 | | 合 計 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 大学以上 | 52 | 66.7% | 40 | 57.1% | 92 | 62.2% |
| 短大・高専 | 0 | 0.0% | 2 | 2.9% | 2 | 1.4% |
| 専門学校 | 8 | 10.3% | 4 | 5.7% | 12 | 8.1% |
| 中・高校 | 18 | 23.1% | 24 | 34.3% | 42 | 28.4% |
| 合計 | 78 | 52.7% | 70 | 47.3% | 148 | 100.0% |

(注) 本文中の図表の計数は、単位未満を四捨五入している関係で、内訳の合計等が合致しない場合がある。また、無回答等により合計が合致しない場合がある。

1. 今の会社を選ぶ際に最も重視したもの

(選択肢)

- ① 仕事の内容に興味があり、自分の能力を活かせると思うから
- ② 会社に将来性がありそうだから
- ③ 経営者の人柄、職場の雰囲気などが良いから
- ④ 通勤に便利などところにあるから
- ⑤ 給料、ボーナスが良いから
- ⑥ 休日、休暇が多いから
- ⑦ 家族や親戚、学校の先生に勧められたから
- ⑧ 希望する会社ではないが、入れる会社だったから
- ⑨ その他



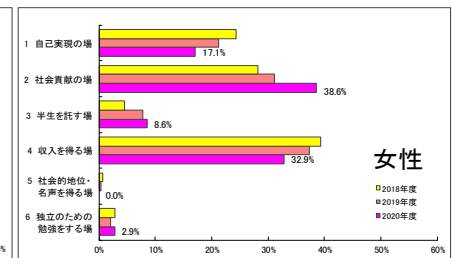
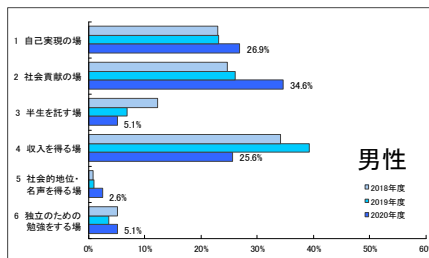
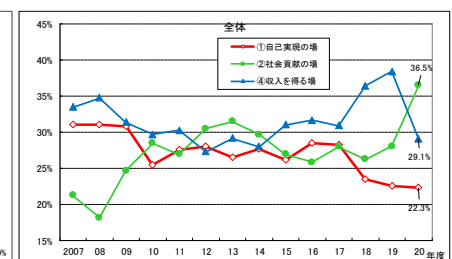
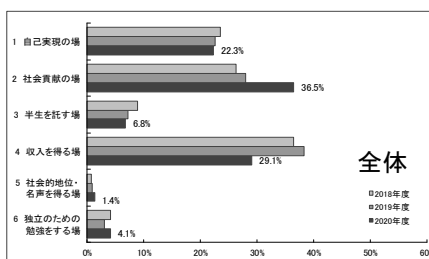
「仕事の内容」を重視する新入社員が約5割

会社を選ぶ際に最も重視したことをたずねたところ、1位は「①仕事の内容」が48.0%（前年比6.3ポイント増）となり、男性が46.2%（同5.4ポイント増）、女性が50.0%（同7.8ポイント増）と、男女ともに約半数の新入社員が選択した。「③会社の雰囲気」は18.2%（同2.4ポイント減）となったが、男性で12.8%（同6.7ポイント減）、女性で24.3%（同1.3ポイント増）と、女性の方が重視している結果となった。

2. 会社とはどんなところか

(選択肢)

- ① 自己の個性や能力を活かし伸ばすところ
- ② 社会に役立つことを実践するところ
- ③ 自分の半生を託すところ
- ④ 収入を得るところ
- ⑤ 社会的地位や名声を得るところ
- ⑥ 将来何らかの形で独立したいので、その勉強をするところ

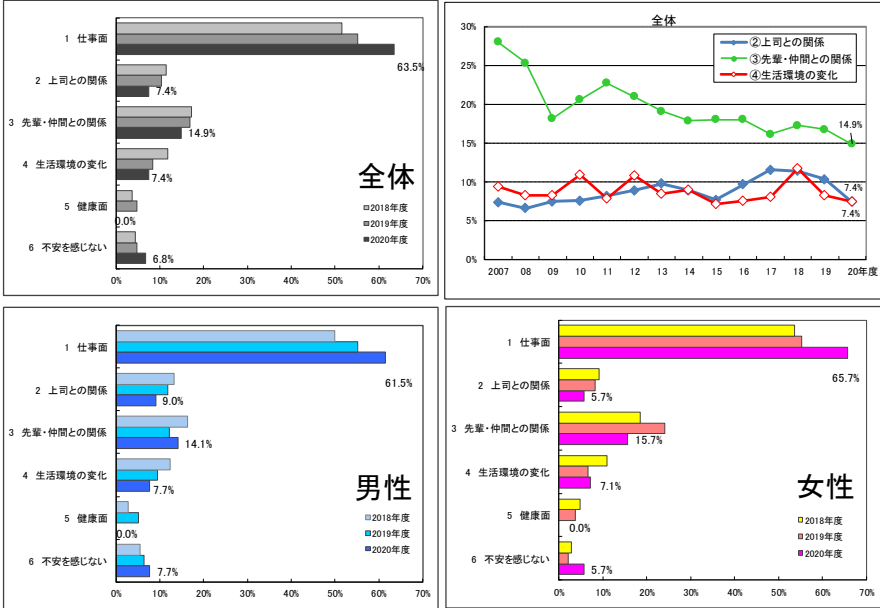


「社会貢献の場」が最多

会社とはどのようなところかという問いでは、「②社会貢献の場」が 36.5%（前年比 8.4 ㊦増）でトップ、次いで「④収入を得る場」が 29.1%（同 9.3 ㊦減）、「①自己実現の場」が 22.3%（同 0.3 ㊦減）となった。「②社会貢献の場」と答えた割合の男女別の内訳をみると、男性が 34.6%（同 8.5 ㊦増）、女性が 38.6%（同 7.4 ㊦増）と男女いずれも 3 割超であった。

3. 職場生活における不安

- (選択肢)
- ① 仕事がうまくやれるか
 - ② 上司とうまくやれるか
 - ③ 先輩・仲間とうまくやれるか
 - ④ 生活環境が変わること
 - ⑤ 健康について
 - ⑥ 不安を感じない

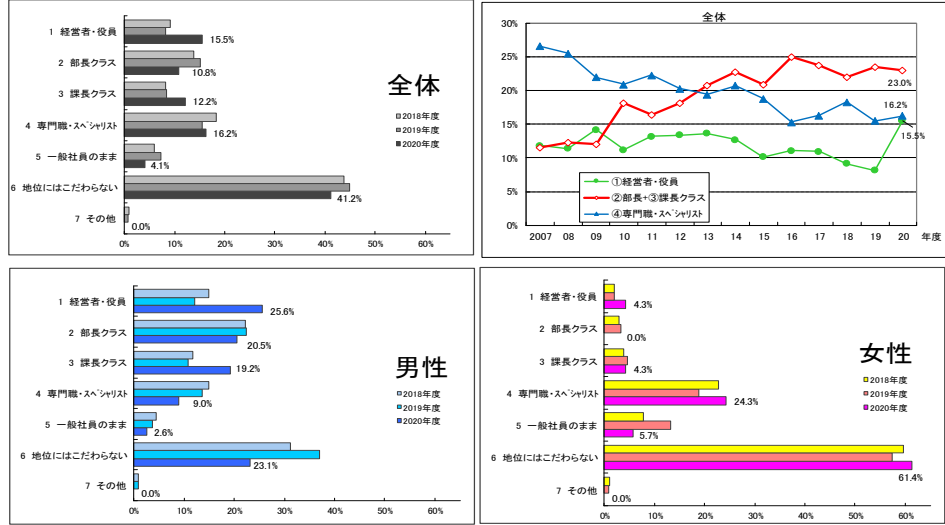


「仕事面」が6割以上でトップ

職場生活における不安のトップは「①仕事面」の 63.5%（前年比 8.3 ㊦増）となった。「③先輩・仲間との関係」の 14.9%（同 1.9 ㊦減）、「②上司との関係」の 7.4%（同 2.9 ㊦減）、「④生活環境の変化」の 7.4%（同 0.9 ㊦減）を大きく上回った。

4. 昇進や出世について、目指す地位

- (選択肢)
- ① 経営者・役員
 - ② 部長クラス
 - ③ 課長（支店長、営業所長）クラス
 - ④ 専門職・スペシャリスト
 - ⑤ 一般社員のまま
 - ⑥ 地位にはこだわらない
 - ⑦ その他



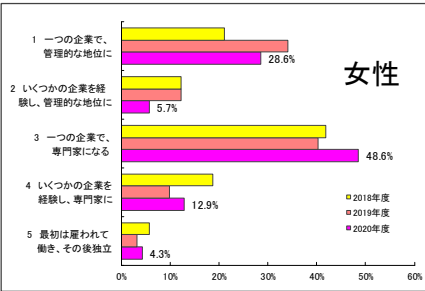
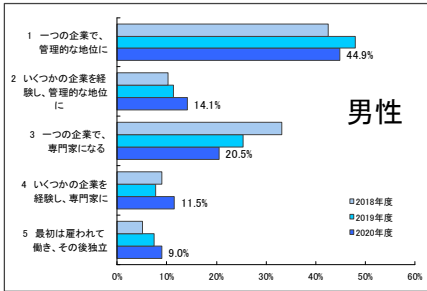
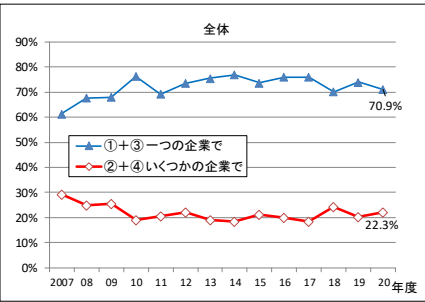
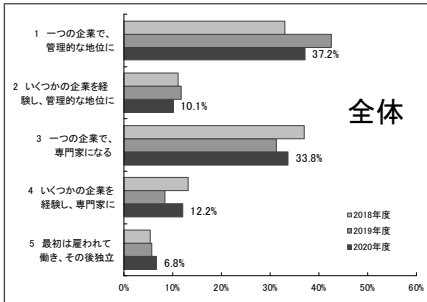
「こだわらない」4割超

昇進や出世については、「⑥地位にはこだわらない」と答えた割合が41.2%（前年比3.6%増）と最も多かった。「④専門職・スペシャリスト」の16.2%（同0.7%増）や、「①経営者・役員」の15.5%（同7.4%増）を大きく上回った。

5. 望ましいと思う職業パターン

(選択肢)

- ① 一つの企業に長く勤め、だんだん管理的地位になっていくコース
- ② いくつかの企業を経験し、だんだん管理的地位になっていくコース
- ③ 一つの企業に長く勤め、ある仕事の専門家になるコース
- ④ いくつかの企業を経験し、ある仕事の専門家になるコース
- ⑤ 最初は雇われて働き、その後独立するコース



約7割が「一つの企業で長く働きたい」

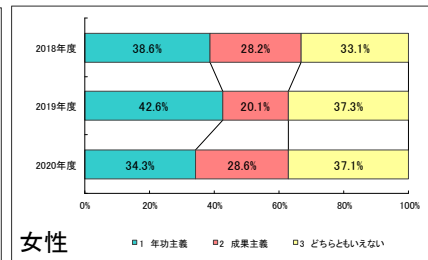
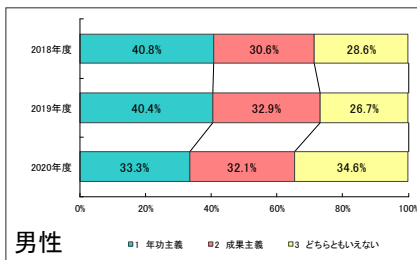
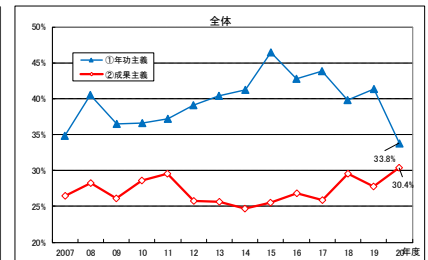
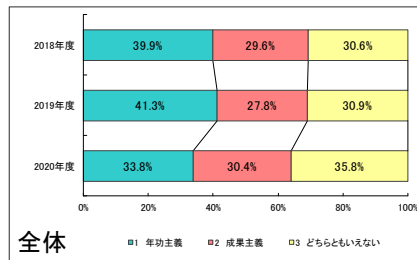
望ましいと思う職業パターンについては、「①一つの企業で、管理的地位に」が37.2%（前年比5.4%増）でトップ、2位は「③一つの企業で、専門家に」で33.8%（同2.5%増）となった。これらを合わせた、一つの企業で長く働きたいと考える新入社員は70.9%（同3.0%増）に上った。また、管理職志向※1が47.3%（同7.1%増）、専門家志向※2が45.9%（同6.1%増）と、同程度となった。

※1 「①一つの企業で、管理的地位に」と「②いくつかの企業を経験し、管理的地位に」の合計
 ※2 「③一つの企業で、専門家に」と「④いくつかの企業を経験し、専門家に」の合計

6. 望ましいと思う昇給パターン

(選択肢)

- ① 仕事の達成度や成果が給料にあまり反映されないが、年齢や勤続年数に応じた昇給がある
- ② 仕事の達成度や成果が給料に大きく反映されるが、年齢や勤続年数に応じた昇給はない
- ③ どちらともいえない



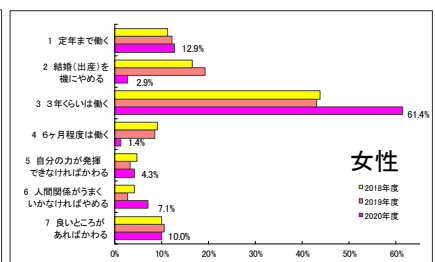
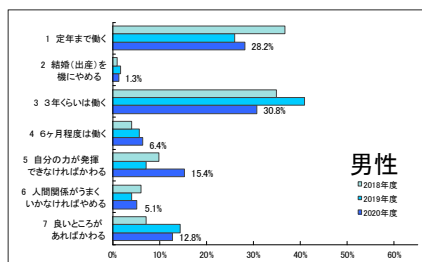
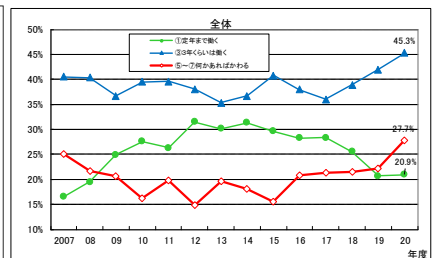
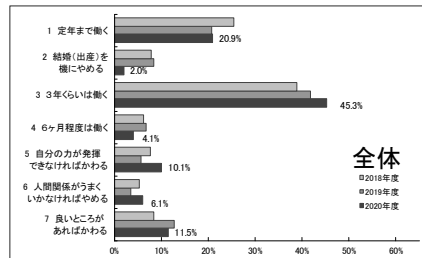
「年功主義」と「成果主義」が拮抗

希望する昇給パターンは、「①年功主義」が 33.8% (前年比 7.5 ㊦減)、「②成果主義」が 30.4% (同 2.6 ㊦増) となった。「①年功主義」が「②成果主義」を上回ったが、その差は 3.4 ㊦とわずかだった。

7. 今の会社が考えていた職場と違ったらどうするか

(選択肢)

- ① 入社した以上、定年まで続けて働く
- ② 結婚(出産)を機会に会社をやめる
- ③ 3年くらいは働く
- ④ 6ヶ月程度様子を見てから決める
- ⑤ 自分の力が発揮できなければわかる
- ⑥ 人間関係がうまくいかなければやめる
- ⑦ 良いところがあれば、そちらにかわる



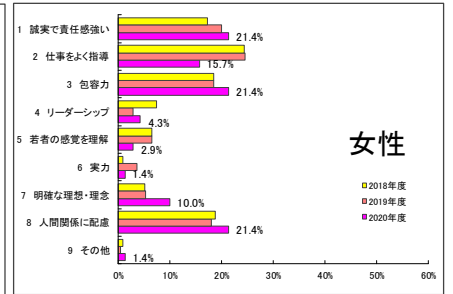
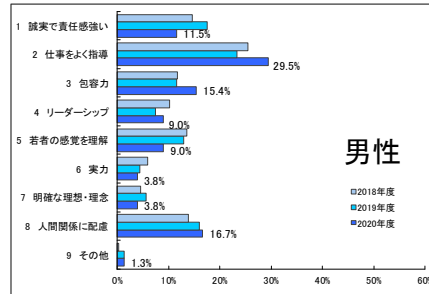
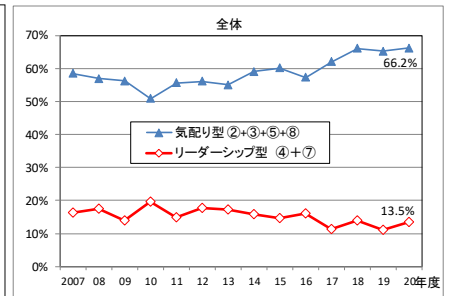
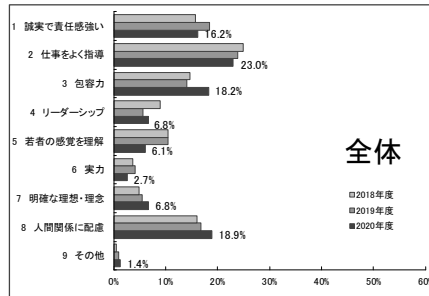
「3年は働く」がトップ

入社前に描いていた職場のイメージと実際の職場が違った場合の対応として最も多かったのは、「③3年は働く」45.3% (前年比 3.4 ㊦増) で、2位の「①定年まで働く」20.9% (同 0.2 ㊦増) を大きく上回った。また、「⑦良いところがあればわかる」や「⑤自分の力が発揮できなければわかる」など何かあればかわると答えた割合は合計で 27.7% (同 5.6 ㊦増) であった。

8. あなたにとって「理想の上司」とはどんな人ですか

(選択肢)

- ① 誠実で責任感の強い人
- ② 仕事をよく指導してくれる人
- ③ 包容力のある人
- ④ リーダーシップのある人
- ⑤ 若者の感覚を理解できる人
- ⑥ 実力のある人
- ⑦ 明確な理想・理念を持った人
- ⑧ 人間関係に配慮してくれる人
- ⑨ その他



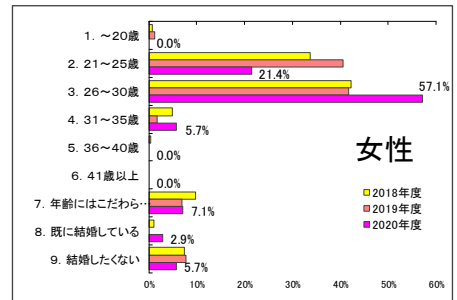
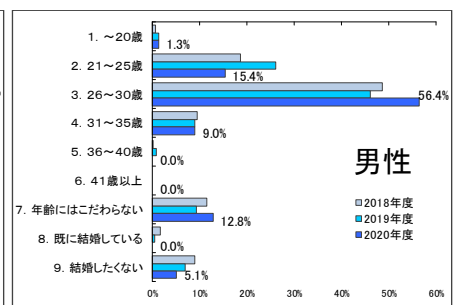
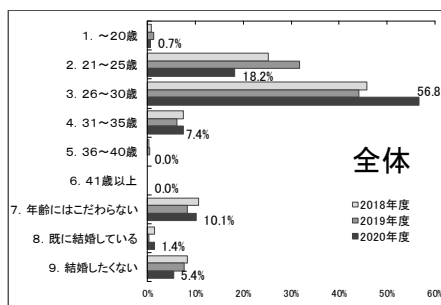
理想の上司は「仕事をよく指導」してくれる人

「理想の上司」は回答の多い順に「②仕事をよく指導してくれる人」23.0%（前年比0.9%増）、「⑧人間関係に配慮してくれる人」18.9%（同2.1%増）、「③包容力のある人」18.2%（同4.1%増）となった。気配り型※3の上司は66.2%（同0.9%増）と人気が高く、リーダーシップ型※4の13.5%（同2.4%増）を大きく上回った。

9. 結婚したい年齢

(選択肢)

- ① ～20歳
- ② 21～25歳
- ③ 26～30歳
- ④ 31～35歳
- ⑤ 36～40歳
- ⑥ 41歳以上
- ⑦ 年齢にはこだわらない
- ⑧ 既に結婚している
- ⑨ 結婚したくない



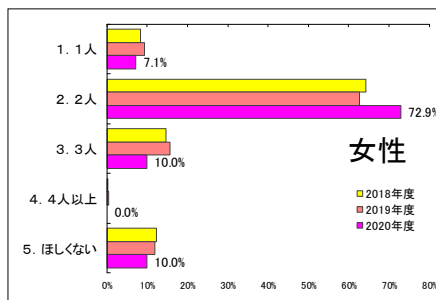
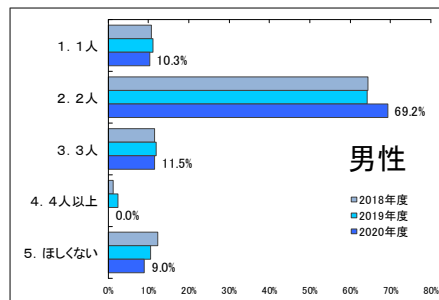
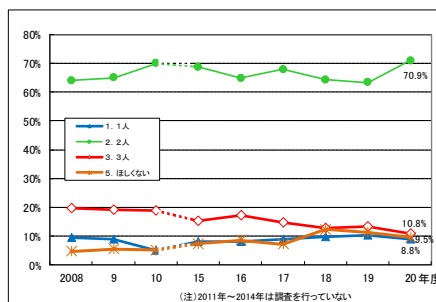
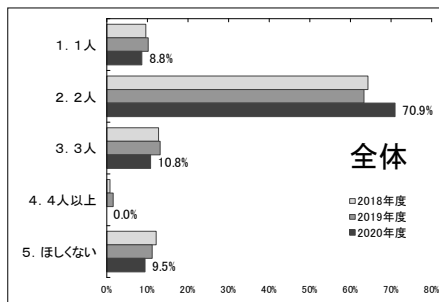
男女ともに「26～30歳」が最多

結婚希望年齢は、「③26～30歳」56.8%（前年比12.6%増）、「②21～25歳」18.2%（同13.5%減）、「⑦年齢にはこだわらない」10.1%（同1.8%増）の順となった。1位の「③26～30歳」については、男性56.4%（同10.3%増）、女性57.1%（同15.3%増）と、男女ともに5割を超えた。

10. 子どもは何人ほしいか

（選択肢）

- ① 1人
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人以上
- ⑤ ほしくない



平均希望子供数は、男女とも：1.83人

希望する子どもの数は、「②2人」が70.9%（前年比7.6%増）でトップ、次いで「③3人」が10.8%（同2.4%減）、「⑤ほしくない」が9.5%（同1.9%減）となった。

平均希望子ども数は全体・男性・女性ともに1.83人となり、2人を割り込んだ結果となった。

平均希望子ども数の推移

単位：人

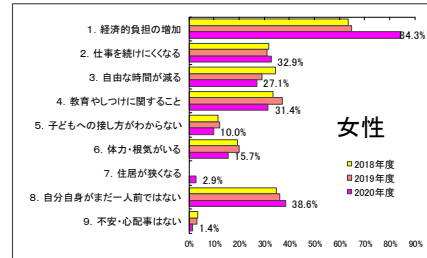
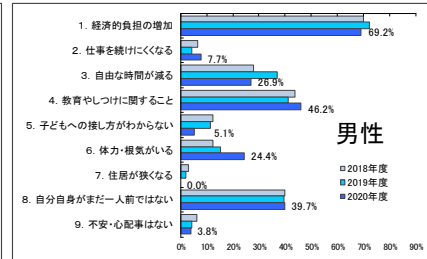
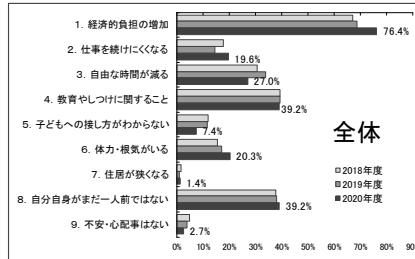
| 調査年度 | 全体 | 男性 | 女性 |
|------|------|------|------|
| 2020 | 1.83 | 1.83 | 1.83 |
| 2019 | 1.84 | 1.84 | 1.83 |
| 2018 | 1.80 | 1.79 | 1.82 |
| 2017 | 1.94 | 1.92 | 1.97 |
| 2016 | 1.94 | 1.97 | 1.91 |
| 2015 | 1.94 | 1.92 | 1.98 |
| 2010 | 2.06 | 2.04 | 2.07 |
| 2009 | 2.03 | 2.01 | 2.05 |

（注）2011年～2014年は調査を行っていない。

11. 子どもを持つことへの不安・心配事

(選択肢)

- ①経済的負担の増加
- ②仕事を続けにくくなる
- ③自由な時間が減る
- ④教育やしつけに関すること
- ⑤子どもへの接し方がわからない
- ⑥体力・根気がいる
- ⑦住居が狭くなる
- ⑧自分自身がまだ一人前ではない
- ⑨不安・心配事はない



トップは「経済的負担の増加」

子どもを持つことへの不安・心配事については、最も多かったのが「①経済的負担の増加」76.4%（前年比7.5%増）、次に同率で「④教育やしつけに関すること」39.2%（同0.3%減）と「⑧自分自身がまだ一人前ではない」39.2%（同0.9%増）が並び、次いで「③自由な時間が減る」27.0%（同6.8%減）となった。

「①経済的負担の増加」と答えた割合を男女別でみると、男性では69.2%（同2.9%減）、女性では84.3%（同19.5%増）であった。また、「②仕事を続けにくくなる」と答えた割合は男性が7.7%（同3.6%増）であったのに対して女性では32.9%（同1.7%増）であり、選択肢ごとに男女差を比較した中で最も差が大きかった。子どもを持つことで仕事を続けにくくなるのではないかと不安は、特に女性が多く抱えるものであることが見て取れる。

(研究員 萩原 綾子・高木 安希子)